

理想って、 何だろう。



病院から退院後すぐに特別養護老人ホームに入所した利用者さん。歩行が不安定で必ず職員の付き添いが必要でしたが、日々の生活の中で介助(援助)していくうちに、歩行の安定性が向上して行きました。その後利用者さんは、職員の付き添いなくても歩行の補助器具を使用してひとりでの歩行ができるようになりました。

日々の生活で、必要に応じて私たち職員が介助(援助)していく中、ひとりで歩きたいという利用者さんの思いを実現することができました。利用者さんの持っている力(能力)を維持していくことを目標に、それぞれの職員が利用者さんに対しての「気づき」を話し合ったり、「気づき」に応じてどのように介助(援助)していくかを計画し実行して行くことで「結果」が生まれてくると思い、日々努力をしています。

コツコツがんばる。 みんなが見ている。



「ここで働いてみたい」という思いだけで飛び込んだ障害者福祉施設の現場。知識や経験に乏しい私が最初にぶつかった壁は、排泄介助でした。おむつを手早く巻くことができず悪戦苦闘する日々。なかなか上達しないことで、働き続けることに自信を失いかけていた時、先輩職員から「焦らないでいいから、まず丁寧におむつをまくことに、一生懸命、取り組んでみて」とアドバイスを受けました。「おむつの巻き方が雑だと利用者さんは不快だし、皮膚に負担をかけ、そこから大きな疾患に繋がることもあるから」と教えてもらいました。その後排泄介助も上達し、他の業務も任せてもらえるようになったのは、あのとき、先輩から「丁寧」「一生懸命」に取り組むことをアドバイスしてもらえたからだと思います。

よく見る人は、 知っている。



デイサービスの行事では、おやつ作りや誕生日会(創作レク)ものづくりを行っています。ワイワイするのが好きな方もいれば一つのことをじっくりゆっくりと楽しみたい方もいます。私たちは、利用者さんの日々の些細な会話からその方の興味のあることを知り、喜んでいただけるようなレクリエーションを常に考えています。練りに練った先日の創作レクでは、作った作品を見た利用者さんから「ほんまに、うれしいね。家で飾っておく」と喜んでもらえました。お一人ひとりとしっかりと向き合うことで利用者さんに楽しんでもらい、またデイサービスに来たいと思ってもらえるよう日々頑張っています。

一人じゃない。 みんながいるよ。



縁あって出会えた子どもたちの成長・・・職員同士喜び合えたり、日々の業務の中で自分だけでは気付かなかったことに気付かせてもらえたりと、お互いに刺激し合い、また助け合えることが多いと感じます。一人では解決が難しい仕事の悩みを感じる時も、経験豊富な先輩や分かり合える同僚に恵まれ職員が協同し合い育ちあう職場環境があります。みんなで考え、問題解決に取り組むことで一緒に頑張りたいという思いが高まります。みんなは一人のために、ひとりはお互いのために・・・子どもたちも、職員も、一人じゃない、みんながいるよ♡を実感することで、それぞれの頑張る力が湧いてくるように思います。